

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム こもれび Aユニット	評価実施年月日	平成20年12月から平成21年1月31日
評価実施構成員氏名	高田 雅章 遠藤 恵美子 竹原 誠子 北島 玲子 飯塚 真祐美 塩谷 真紀 草間 恵 菅尾 綾 保田 香織		
記録者氏名	高田 雅章 遠藤 恵美子	記録年月日	平成21年1月31日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>その人らしい、生活が出来るように家庭てきな雰囲気の中でその方の持っている力を最大限に引き出せるよう取り組み、本人の意思や、家族の希望を取り入れ、個人に合った生活支援できるよう努めている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の申し送りや、カンファレンスの中で個人のケアについて話し、実践に取り組んでいる。</p>	○	<p>パンフレットを新しく作成するため理念を掲示し、訪問者や家族へわかるよう、取り組んでいきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族への手紙やホーム便りを発行したり、運営推進会議や勉強会の際に、日常の様子や行事の話をしている。また、町内会の行事にも参加したり、グループホームでの勉強会で認知症を理解できるように、参加を呼びかけ一緒に学ぶことに取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会に勉強会や行事の案内し、勉強会の参加や、グループホーム周辺の草刈を手伝ってくださったりする。雛人形を見に立ち寄ったり、近所の人たちと挨拶を交わしたりしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>老人クラブへ参加したり、町内会のお祭や、盆踊りに参加したりしている。また、近隣の小学校の「子ども110番」に加盟し、毎月町内会の資源回収にも協力をしている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や勉強会を通じ、地域高齢者や家族が役に立てるような、情報の場として取り組み、いつでも相談できるよう心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価を行う事で、外部からの視点や気づきの大切さの意味を理解し、振り返りの方法として自己評価に取り組み、サービスの向上に努めている。</p>	○	自己評価の意義を職員一人ひとりが理解し、個人の振り返りの場として活用し、今後のサービス向上に努めていきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議にて、外部の人々にグループホームの取り組みや内容を知ってもらい、自分たちの行っている事の再認識を行い、質問や意見・要望を活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村担当者と行き来する機会を作り、意見を頂き、サービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>勉強会や運営推進会議にて、学ぶ機会を持つと共に地域権利擁護を活用している家族もいる。必要な人には、制度が活用できるよう努めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、理解を深めて今後の関わりに繋げていけるよう努めていきたい。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用者や家族と直接話し合う機会を設け、十分に話し合いを行い、不安や疑問が軽減・解決出来るよう情報提供し、理解を得られるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や意見・要望等に耳を傾け、利用者の不安や、意見等は、各ユニット毎に話し合いを行い、運営に反映できるよう心がけている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	体調不良や、受診を行った際には、その都度連絡し結果をお伝えして得る。また、面会時に日常の様子や、健康状態を伝えている。毎月家族へ手紙を送って喜ばれている。また、行事や日常生活の様子の写真などを一緒に送っている。	○	職員の移動や行事などお知らせすると共に、広報誌なども今後も継続して家族へと送って行きたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に苦情・相談窓口について明記し、入居時に説明をしている。家族から、意見・不満・要望があったときは、早急に対処し、改善に努めている。また、玄関に意見箱を設置している。面会者より、職員に対する感謝のコメントを頂いたりした。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや勉強会の際意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたりしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態等により職員の人数等に配慮している。また、ローテーションを行う場合は、利用者に影響が少ないよう配慮している。	○	受診や行事・要望に対し利用者の負担にならないように、事前に職員と話し合い、職員の人数の配置や、勤務時間の調整を今後も行って行きたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には、ユニットごとに職員を固定化し馴染みの関係を築けるよう配慮している。新しい職員が入る際も、利用者との関係を築けるよう利用者から教えてもらえるような工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の経験に応じ、積極的に研修を受講できるよう勧めている。希望があれば、受講できるよう勤務変更し配慮したりしている。又、毎月勉強会を開催している。</p>	<p>○</p> <p>今後もホーム内の勉強会を継続して開催すると共に、医療面の勉強にも力を入れていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に他法人との交換研修や、合同の勉強会を開催している。又、札幌市や区の管理者連絡会に出席し、情報交換や交流を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に他のグループホームとの親睦会を開催し、職員の悩みやストレスが軽減し、気分転換を図れる機会をつくっている。又、休憩時間や休憩場所など少しでも気分転換が出来るよう声をかけている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員一人ひとりの業務や悩みを、軽減・解決できるよう話したり、互いに学び、職員が向上心を持って働けるよう行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に自宅や病院・入居施設などに訪問し、本人と直接会い、話し合いを十分行い、不安が軽減できるよう情報交換を行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族や利用者が困っていることや、不安なことを理解し、家族や利用者の置かれている背景などを、話し合いを十分に行い受け止めるよう努力している。相談をしながら、家族で抱え込まず一緒に関わりを持ち、受け止める努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者にとってどんな支援が必要なのか、利用者・家族からの話し合いから、利用者の状況を見極め、その利用者合ったサービスが提供できるよう取り組み、他事業所と連携を図り、必要なサービスを利用できるように努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に自宅や病院・施設などに訪問し、また、グループホームへの見学や体験入居を行ったりしている。入所後も、家族と相談しながら、不安を軽減し、安心して生活ができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的な関わりとならないよう、利用者の言葉や表情・精神面などに配慮し、共感したり利用者から学ぶ機会や活躍できる場面を作っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常生活の様子や気付きを家族へと伝え、入所前の様子や、悩み・苦労話など情報を共有し、家族と一緒に利用者を支え行けるように務めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会や外出・外泊の取り決めはなく、いつでも家族と一緒に共有できる時間や思いを過ごせるように努めている。年末年始やお盆など外泊や外出にて、家族と共に過ごされる事もある。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通いなれた美容院へ行ったり、自宅近所のラーメン屋へ食べに行ったりと、利用者とのつながりを大切にしている。馴染みの友人や知人からの手紙や年賀状のやり取りがある。	○	自宅へ訪問したり、自宅の町内の老人クラブへと参加したりしており、今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	姿が見えないとお互い気に掛けたり、体調の悪い利用者を気遣ったり、利用者同士の関係や、助け合う場面が見られる。さりげなく職員が介入し、利用者同士の関係を円滑になるように働きかけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後家族が行事のボランティアとして、ハンドベルコンサートを行ったりと、関わりが続いている家族もあり、つながりを大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前に本人や家族から、希望や要望など、日常の会話・様子・行動などから情報収集を行い、一人ひとりの思いを把握するよう努めている。入所後も、気になる事や暮らしぶりを家族にも伝え検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人から聴き取りを行うと共に、フェイスシートを用いて、本人や家族に記入をしてもらい、一人ひとりの利用者について、生活暦や暮らしぶりを把握出来るよう取り組んでいる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	趣味や、好きなテレビ番組、入浴の習慣など、一日の生活の流れを一人ひとりの現状に合わせ、総合的に把握できるよう、情報を共有し努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	より良い生活が送れるように、職員で話し合うと共に利用者と家族の意志や思いを取り入れ、本人の意思やおもいが伝わることの難しい場合にあっても、利用者が自分らしく生活できるよう意見交換をし、計画を作成しケアに反映させている。	○	遠方の家族には、手紙と一緒にケアプランを送り、サインと共に意見を頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ケアプランを見直し、利用者の状態に応じてその都度話し合いを行っている。日々の様子や身体・精神面など利用者の状態変化や状況、家族や本人の要望にも応じ、計画の見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者に応じ水分量や排泄などチェックを行い、日々の日常の様子を記録し介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族からの急な外泊や、外出にも対応している。また、家族や本人からの要望に外出などの支援にも沿えるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域で生活できるように、町内会や民生委員との意見交換をしている。	○	近所に独居老人がおり、民生委員と情報交換を行い安否確認をしたり、冬には雪かきをしたりしている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要時に、十分検討し事業所以外のサービスとつなげるよう支援していきたい。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議や勉強会にて、情報交換や権利擁護の勉強会を行い、地域包括支援センターと協力関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週2回医師・看護師の訪問診療の他、協力病院へ受診したり、利用者により、入所前から通っている医院・病院へ受診している。いつでも24時間相談できる医師や看護師がいる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の症状や治療などにより、相談できる専門医がおり、家族へと相談し、認知症の専門医への受診・相談を行っている。関わり方や、今後の状態・内服などのアドバイスを頂き、対応に生かしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員はいないが、何かのときに電話で相談できる医師・看護師がおり、24時間医師に連絡・相談が出来る。週2回訪問診療で医師・看護師の住診があり、健康管理記録にて個別のやり取りを行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族の希望を聞き、入院先との情報交換を行い、利用者の状態把握に努め、早期退院ができるよう努めている。また、家族との連絡や情報交換にも努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人や家族の意見や要望を聞き、かかりつけ医や協力病院などと相談しながら、繰り返し話し合いを行い支援を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医との日々の連携をとり、終末期にあたっては、本人・家族・医師・看護師・職員により話し合いを持ち検討し、要望に沿えるよう支援している。	○	重度化や看取りについて意思の確認が出来る書類を作成し、医師や看護師・家族と連携しながら取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人の意思を踏まえ、本人の日常生活の状況に即した情報提供を行い、今後のニーズに合った、生活を家族と検討し、別の居宅に移り住む際は、ケア関係者と情報交換を行い調整していく。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレ誘導時、周囲に配慮しながら、さりげなく声掛けを行っている。また、記録に関しても誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合わせ意思表示がしやすい声掛けや、利用者が選べるような雰囲気づくりを行い、表情から読み取ったり、本人が選んだり決めたりできる場面づくりをしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の気持ちや、体調にあわせ一人ひとりに合った日常生活がおくれるよう個別性のあるケアを行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせて、近所の美容室や、行きつけの美容院を利用できるよう支援している。また、希望により訪問美容を活用している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立メニューや、一人ひとりの好みにより、盛り付け量や他の物を付けたりして対応をしている。利用者と共に調理や後片付けを行っている。食事中は利用者の機能や、状況に合わせて声掛け・介助を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は一人ひとりの嗜好を理解し、体調や病歴を踏まえその人にあった提供の仕方をし、楽しめるように支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、時間や習慣を把握し、利用者のサインや表情などから、トイレで排泄できるよう支援し、去りでなく誘導し介助している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日や入浴時間は、出来るだけ利用者の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりの生活習慣を把握し、その人に合った休息がとれるよう、日常の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの出来そうなことや、やりたい事に、力を発揮できるよう支援を行い、尊敬の念や、感謝の言葉を忘れずに対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力や希望に合わせてお金を預かり、事務所にて管理している。利用者により家族との協力を得て小額のお金を持っている利用者もおり、ご自分でヤクルトの購入の支払いなどし、職員も支払いの援助や、確認をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人一人の希望に沿った外出は出来ていないが、受診時や、買物を利用し希望を取り入れたり、散歩や玄関前出で外に出る機会を作っている。	○	買い物や外出などの他、散歩や外の空気に当たる機会など、今後も増やしていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	以前行っていた馴染みの飲食店に行ったり、家族へと連絡し一緒に外食へ出掛けたりと、外出する機会を作ったりしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に沿い、手紙や電話の取次ぎを行い、いつでも出来るようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を設けてなく何時でも訪問できるよう環境づくりをし、心地よく過ごせるよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会や、資料を読み、職員が共通の認識を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の様子から、さりげなく声を掛けたり、一緒に外へと行ったりし、安全面に配慮しながら、日中は玄関の鍵をかけずに支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者と同じ場所で、さりげなく記録など行いながら、状況を把握するよう努めている。夜間は時間により巡回を行い、利用者の安否確認を行っている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>一人ひとりの状況に応じ、安全に使えるのかどうか判断し、有する能力が維持できるよう支援している。必要に応じ保管管理している。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故報告書やヒヤリハットを記録し、カンファレンスを行い、原因や今後の予防対策について検討し、職員の共通意識がもてるように行っている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>勉強会にて救急対応についての講習会を開催し、知識や対処方法身に付けられるよう努め、急変時のマニュアルを整備している。</p>	○	<p>日頃から利用者の病状や症状をはなし、急変にも対応できるよう話している。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的に設備点検を行うとともに、年2回避難訓練を行っている。</p>	○	<p>避難訓練にて消火器訓練を行ったり、日頃から避難経路の確認をしている。また、町内会の人々の参加を多くして避難訓練を行っていきたい。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>日常生活の様子や気付きを家族へと伝え、専門医へと受診し相談を行い、結果を家族へと伝え検討しながら、本人が落ち着いて暮らし安全な生活がおくれるよう対応をしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常生活のバイタルチェックを行い、記録や体調・様子等の変化に気づき、早期発見に取り組む状況に応じ医療受診をしている。また、気になることは、訪問診療にて相談している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに処方箋のコピーをいつでも確認できるようにはさめている。内服時は、本人の薬であるか確認し、きちんと内服できるよう支援している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、体を動かす機会を作り、便秘防止に努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に応じた介助を行っている。就寝前には、義歯の洗浄を行っている。又、歯科医院の協力のもと口腔ケアの勉強会を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量をチェック表にて確認し、一人ひとりの嗜好を取り入れ、摂取出来るよう工夫している。食事も個別で記録している。定期的に管理栄養士に献立メニューを見てもらいアドバイスをもらっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、各フロアーに置き、職員がいつでも見れるようにしている。又、札幌市からの通達事項もフロアーに配布し必ず目を通しサインするようにしている。	○	外出後には、うがい手洗いを行っており、訪問者にも呼びかけを行っている。また、食事前に必ずテーブルを消毒を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・布きんは、毎晩漂白している。食前食後には塩素系漂白を薄めた物をスプレーしテーブルの消毒を行っている。調理の作り置きはせず、調理した物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に手作りの看板を表示し、花壇やベンチを置き気軽に立ち寄れる工夫をし、雰囲気作りに努めている。夏場は、玄関前にベンチを置き、くつろげるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間が南に面しているため日中の日差しをカーテンなどで調整したり、テレビの音にも配慮し、季節に応じた装飾や写真を飾り、居心地よく暮れせる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間以外にも各所にソファを置き人の気配を感じつつもひとりで過ごしたり、他者と話ができるよう工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れたタンスや、ベッド・カーテンなど、なじみの物を持ち込み利用者の心地よく過ごせる居室に配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	随時換気を行い、臭いなどに配慮している。また、居室やフロアに温度・湿度計を設置し、温度調整のほか、冬には加湿器を設置し、湿度にも配慮している。	○	臭いなどに配慮し、換気を行ったり、環境整備に心がけている。必要に応じて空気清浄機などを活用していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや廊下の手すりは、利用者にとって使いやすいよう配慮されており、安全に暮らせるように配慮している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの状況を把握し、不安や混乱の原因は難なのかを話し合い、環境整備に努め、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように努めている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑や花壇など手入れや水やりを行ったり、玄関前にベンチを置き、利用者が涼んだり、日向ぼっこが出来るようにしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない <input type="radio"/> 言葉で表せない思いをくみ取るよう、努力している。
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない <input type="radio"/> 食事やおやつなど一緒に食べ、話をしてゆっくりとした時間をもっている。
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/> グループホームでの時間の流れに、一人ひとりのペースで生活をしている。
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/> 声掛けにより、笑顔が見られた時に、生き生きしているように感じる。
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/> 要望ですぐに対応できない事もあるが、行けるよう支援している。
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/> 訪問診療や必要な受診で不安を減らし、生活が出来ていると思う。
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/> 枠にとらわれず、柔軟な対応で支援が出来ていると思う。
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない <input type="radio"/> 遠方の家族にも手紙でやり取りし、面会時にも、その都度日常の様子などお伝えし、関係作りを行っている。
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない <input type="radio"/> 家族以外にも知人や友人が訪ねたり、町内の方が行事や雛人形を見に来たりしている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ 町内会とのつながりが深まり、グループホームへの理解も増えた。 ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○ 理想と現実の間で、悩み迷う事もある。 ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ 足りない事は多いと思うが、安心して生活し、満足して頂いていると思う。 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○ 手紙や、来所時に職員に対しねぎらいの言葉をいただいた。 ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・利用者一人ひとり、安心して日々の生活が送れるよう、家族・医療・地域とのつながりを大切にし、その人らしい生活が送れるように、これからも支援していきたい。